

今回山形短観における主な判断、事業計画の動き (2020年9月調査)

1. 業況判断

9月調査では、製造業、非製造業とも改善したため、全産業では▲38と前回調査から6ポイント改善した。因みに、前回調査では改善、水準は▲35を予測していた。

製造業・・・化学が悪化したものの、はん用・生産用・業務用機械が改善したため、全体では▲50と前回調査から7ポイントの改善となった。前回調査では、水準は▲52を予測していた。

非製造業・・・建設が悪化したものの、情報通信や対事業所サービスが改善したため、全体では▲27と前回調査から4ポイントの改善となった。前回調査では、水準は▲19を予測していた。

先行き(2020年12月予測)は、製造業、非製造業とも改善するため、全産業では▲29と9ポイントの改善を予測。

2. 売上・収益計画

(1) 売上高

2020年度(計画)は、製造業は前年度比▲7.0%の減収、非製造業は同▲5.4%の減収となり、全産業では同▲6.3%の減収計画。

前回調査との比較では、製造業(修正率▲4.2%)、非製造業(修正率▲2.0%)とも下方修正され、全産業では▲3.2%の下方修正となった。

(2) 経常利益

2020年度(計画)は、製造業は前年度比▲64.2%の減益、非製造業は同▲46.3%の減益となり、全産業では同▲59.4%の大幅減益計画。

前回調査との比較では、非製造業(修正率14.6%)は上方修正されたものの、製造業(修正率▲8.3%)が下方修正されたため、全産業では▲1.3%の下方修正となった。

3. 設備投資額（含む土地投資額）

2020年度（計画）は、非製造業は前年度比5.1%増加するものの、製造業が同▲6.5%の減少となるため、全産業では同▲1.3%の減少計画。

前回調査との比較では、非製造業（修正率1.1%）は上方修正されたものの、製造業（修正率▲16.0%）が下方修正されたため、全産業では▲8.6%の下方修正となった。

4. 雇用

雇用人員判断・・・ 製造業では「過剰」超幅が縮小した。また、非製造業では「不足」超幅が拡大した。この結果、全産業では、前回調査で「過剰」超に転じていたが、再び「不足」超となった。先行き（2020年12月予測）は、非製造業中心に「不足」超幅が拡大する予測。

以 上